

企業概況ニユース

UJP NEWS for Japanese Executive

U.S. Japan Publication N.Y., Inc. 33 East 33rd Street, Suite 1101, New York, NY 10016
Tel. (212) 252-8833 / Fax. (212) 252-8838 / Email: mail@ujp.com

ANA エアライン・オブ・ザ・イヤー2007を受賞 燃油費の電子請求をXML形式で開始

全日本空輸(株)(本社東京都)はこのほど、米誌の「エア・トランスポート・ワールド」において「エアライン・オブ・ザ・イヤー2007」に選ばれた。

「エア・トランスポート・ワールド」は、民間航空業界の月刊誌で、1974年から毎年、顕著な実績のある航空会社を選び表彰している。

今回の受賞理由として、(1)コスト構造改革を断行し、SARS(重症急性呼吸器症候群)や燃料高騰、日本の航空業界の再編などを乗り越え、強力な財務パフォーマンスを達成、(2)LOSA(日常運航便の安全モニタープログラム)の導入など、安全への取り組み、(3)「New Style Club ANA」などのプロダクトの導入、などが挙げられており、品質向上と財務体質改善への取り組みを高く評価して

いる。

また同社は、エクソンモービル・アウェイエーション社(英国ブリュッセル市)と、IATA(国際民間航空機関)推奨のXML形式を活用し、燃料費の請求を電子請求書で行うことについて、2006年12月より運用を開始し、本年2月より正式に社内システムとの連携運用を開始した。また、07年4月からは新日本石油(株)との電子請求システムの正式運用も予定している。

電子請求は、請求書の金額を電子的に処理できることから、請求書の数字を改めて入力するなどの手間が省け、経理処理の効率化を可能とする。同社は現在電子請求書に関する



る処理を、ドイツのフェルプラス社が開発したシステムで対応している。約50の国内空港と、約30の海外空港において、毎月の請求

マックス・コンサルティング・グループ 東京オフィスを開設

人材紹介派遣のマックス・コンサルティング・グループ社(本社ニューヨーク州ニューヨーク市、名倉学社長)はこのほど、東京にオフィスを開設した。

同社はこれまでニューヨーク地区を中心に、全米主要都市、東南アジア諸国、英国、中南米における人材紹介・派遣を提供してきた。日本での事業に関しては、1998年に東京連絡事務所を設け、帰国転職者へのサポートを開始。2003年には、職業紹介事

求に対応している同社にとって、今回の請求書の電子化の導入は、事務処理効率化に大幅に貢献することになる。

【問い合わせ】
ALL NIPPON AIRWAYS, CO., LTD.
電話: 310-782-3190
URL: www.fly-ana.com



同社社長の名倉学氏(右)と東京オフィス・ジェネラル・マネジャーの山田直美氏(左)

てきた。今回の東京オフィス開設に際しては、2月1日付で、ニューヨーク州と日本での有料職業紹介事業許可を厚生労働省より取得。ジェネラル・マネジャーには、コンサルタントの山田直美氏が就任した。

今後は、ニューヨークと東京の両オフィスにビデオ会議システムを導入し、日本での就職希望者に、帰国前からの日本の就職情報や企業との面談の場を提供していく。またMBA保持者、駐在員、帰国転職希望者、米国や欧州の大学新卒者を対象としたサービスを拡充すると共に、米国進出企業への人材紹介、及び人事関連サポートも強化していく方針。

【問い合わせ】
MAX Consulting Group, Inc.
電話: 212-949-6660 (ニューヨーク・オフィス) / 81-3-3507-5864 (東京オフィス)
eメール: jp@maxjob.com
URL: www.maxjob.com

技術の「小笠原」を米国でも宣揚

ラッセル・ホルブルック & ヘンダーソン・インク

社長 小笠原真智氏



ラッセル・ホルブルック & ヘンダーソン・インクは(株)小笠原プレジジョンラボラトリーの米国販売子会社。80年以上の社歴を誇る老舗の工具商で、「小笠原」の製品を高く評価した代理店だった。創業者のリタイアを機に1998

「歯車」は歴史の長い技術であり、いずれなくなると言われながらも、回転動力伝達では大変重要な地位を占めている。動力源としてのモーターはますます小型

とならない

のため、「これを作って下さい」と頼まれてから動き出すより、むしろお客様と一緒に、初期の段階から開発に携わって

「歯車」の小型化、高精度化に日々挑戦して、その技術、ノウハウで最先端をいく。米国の航空事業やメディカル分野へ入り込むのが当面の目標。小型化が進めば進むほど、